

2021年12月16日

各位

会社名 株式会社レナサイエンス  
代表者名 代表取締役社長 内藤 幸嗣  
(コード: 4889 東証マザーズ)  
問合せ先 取締役管理管掌兼管理部長 池田 和博  
(TEL. 03-6262-0873)

## 東北大学との「オープンイノベーションによる医療ソリューション開発」 に関する提携協定書締結のお知らせ

当社は、国立大学法人東北大学（所在地:宮城県仙台市、総長:大野 英男、以下「東北大学」）オープンイノベーション戦略機構との間で、「オープンイノベーションによる医療ソリューション開発」に関する提携協定書（以下「本協定」）を締結することといたしましたのでお知らせします。

本協定締結に伴い、当社は2021年12月当社研究開発拠点を東北大学メディシナルハブ（以下、「メディシナルハブ」）に設けます。

### 1. 本協定締結の理由

当社は2013年から現在まで、東北大学との間で、医薬品・医療機器・人工知能（AI）ソリューション開発等、複数の共同研究を実施中です。東北大学は、2018年に産学共創拠点として『メディシナルハブ』を設立し、オープンイノベーション型コンソーシアムを推進しています。メディシナルハブでは、製薬企業のみならずIT企業、ヘルステック企業、ベンチャー、VC、行政など多くの異業種を参画させることで、最先端のイノベーション創出を可能とするエコシステムの構築を推進しております。この度、メディシナルハブに当社研究開発機能を設置し、当社の研究開発をさらに加速発展させるため、本協定の締結に至りました。

### 2. 本協定の内容等

医薬品産業も、低分子医薬品を中心とした開発から、バイオ医薬品などモダリティが大きく多様化しつつあります。さらには近年の工学系や情報系技術の進歩により、情報・工学技術との融合による新たな医療の模索も進んでおり、欧米や国内の大手製薬企業では既に医薬品単体のビジネスから医療ソリューション全般にわたるビジネスへと転換を迎えており、学際研究領域での研究開発や新規事業開発が注目されています。これまでは、化学系や生物系が当社の研究の主体でしたが、今後工学系や情報系の研究にも視野を広げ、多彩で魅力ある研究と事業のポートフォリオを創生することが課題です。

当社は、革新的な次世代医療創出のために、ヘルスケア産業における「医・薬・工」の異分野融合等、産学官オープンイノベーションを促進すべく、本協定を締結いたします。東北大学オープンイノベーション拠点（ライフサイエンス）のメディシナルハブに、当社研究拠点『Tohoku University and Renaissance Open Innovation Labo（以下「TREx」）』を設置し、宮城県や仙台市とも連携し、医療イノベーション創出に取り組みます。当社研究員が東北大学に常駐することにより医療現場の課題をより正確に把握し、最先端の研究施設、学術データベース等を利用することが可能となり、研究開発の加速が期待できます。

### 3. 今後の見通し

本件による2022年3月期の業績予想の変更はありません。中長期的には、これまで当社が培ってきた医療ソリューション研究に関する様々な知見やノウハウを基盤として、外部研究機関との連

携を加速させる取り組みであり、当社の企業価値向上に寄与するものと考えております。

以 上

**【Tohoku University and Renaissance Open Innovation Labo (TREx) の概要】**

1. 設置する大学・部局 : 東北大学 オープンイノベーション戦略機構
2. 所在地 : 宮城県仙台市青葉区星陵町 2-1 (東北大学 星陵キャンパス)
3. 設置場所 : 医学部 5 号館 2F 「メディシナルハブ」
4. 設置期間 : 2022 年 1 月 1 日～2025 年 12 月 31 日
5. 当社側担当者 : 取締役研究開発管掌兼医療ソリューション開発部長 加藤 翔  
他数名
6. 研究テーマ : 医薬品、人工知能 (AI)、その他 (診断薬、医療機器)

<ご参考>

**【 国立大学法人 東北大学 】**

東北大学は、建学以来、「研究第一主義」の伝統、「門戸開放」の理念及び「実学尊重」の精神を基に、世界トップレベルの研究・教育を創造してきました。2017 年には「指定国立大学法人」に指定されました。東北大学の詳細については、<https://www.tohoku.ac.jp/japanese/>をご覧ください。

**【 東北大学 オープンイノベーション戦略機構 】**

東北大学オープンイノベーション戦略機構では、学内に設置した「企業の研究活動拠点」として「オープンイノベーション戦略機構アライアンス・ステーション」を提供しています。「信頼」と「継続」をコンセプトに、本拠点をハブとして、企業研究者と複数の部局の研究者がタイムリーかつ多面的なコミュニケーションを可能とする「共創の場」を形成することによって、継続的に「イノベーションの創出」を実現させることを目的としております。